

北海道東部、美幌峠で確認された外来種ハイキジムシロ

美幌町 城坂(平林)結実

北海道東部、阿寒摩周国立公園の一部である美幌峠において、バラ科のハイキジムシロ *Potentilla anglica* Laichard. を確認したので報告する。

美幌町の南東部に位置する美幌峠は、標高 500m ほどにも関わらず、1 年を通して風が強く霧のかかりやすい気候から、稜線上や崖付近にコケモモやミヤマオダマキといった高山植物を含む貴重な植生が見られる。一方で、屈斜路湖を一望できる景観の良さから、年間 70 万人ほどの観光客が訪れる観光地として、舗装された遊歩道と展望台、道の駅「ぐるっとパノラマ美幌峠」や駐車場も整備されている。

2022 年 8 月 21 日に、美幌峠展望台付近の管理道上、幅 2m 長さ 50m ほどの範囲で黄色の花を咲かせるバラ科の草本を発見した。一見キジムシロのようであったが、葉に比べて花が大きく、開花時期もキジムシロとは異なるため調べてみたところ、ハイ

キジムシロであった。本種はヨーロッパ原産の多年草で、北アメリカやニュージーランドにも帰化している(植村ほか 2010)。国内では、1997 年に神奈川県で初めて発見され(勝山・田中 1998)、その後、北海道、秋田県、千葉県、神奈川県、東京都、兵庫県、岡山県などでも報告されている(池田ほか 2003、鳴橋 2003、植村ほか 2010、URL : <http://science-net.kahaku.go.jp/> ; 2022 年 10 月 6 日版)。五十嵐(2016)によると、北海道では札幌市と浦河町で確認されているが、北海道東部ではこれまで確認されていない。

美幌峠のハイキジムシロ(図 1)は、花弁は 4 枚で長さ 7-10mm、茎は地面を這うように長く伸び、小葉は倒卵形で 3-6 対の鋸歯があり、茎葉は上部のもので 3 小葉、下部には 5 小葉のものがあった。花時に根生葉も見られた。2022 年 8 月 21 日の確認以降も 10 月末まで開花を確認した。開花個体は採取し、さく葉標本を美幌博物館に収蔵した(図 2)。

ハイキジムシロは神奈川県や千葉県、岡山県では、緑化用の種子に混入したと考えられており(勝山・田中 1998、池田ほか 2003)、美幌峠においても造成された管理道に生育していることから、同様の理由が考えられる。

(美幌博物館)



図 1 美幌峠のハイキジムシロ